

群馬菱の実会だより

秋の親睦旅行の旅・参加者のご確認

恒例の秋の親睦旅行「信州・戸倉上山田温泉と安曇野の旅」を前号でご案内いたしました。締切日までに次の27人の方から参加の申し込みをいただきました。参加のご確認と、集合時間、コース等のご確認をお願い致します



荒井 昭三	石尾 延也	石関 武司	大槻 伸次	大谷 清輔	岡島 清二
上村 統久	久保 弘行	窪田 秀治	小平 昌司	斎藤 慶蔵	境野 賢治
篠崎 辰夫	白井 敬郎	高橋 勝美	田口 勝也	立浪 嘉明	田野 博保
長澤 英治	永沼 進	長谷川 正男	福島 晃	福島 才吉	細野 孝雄
茂木 敏男	下山 國夫	福田 興司			

1. 期 日 : 平成20年10月15日(水)～ 16日(木) 1泊2日
2. 集 合 : 馬電 正門前 午前9時45分 (駐車場は、旧白石寮です)
3. 宿泊先 : ホテル 雄山(ゆうざん)(長野県戸倉上山田温泉) TEL 026-275-2333
参加費 : 16,000円 (女性は 12,000円) (当日徴収させていただきます)
留守宅には、事務局及び宿泊先の住所、電話番号を。念のため、保険証のコピーを持参下さい

< 1 日 目 >		< 2 日 目 >	
10:00	馬電正門前 出発	9:00	ホテル 出発
12:00 着 13:00 発	小諸、信州そば草笛(昼食)	10:30 着 11:30 発	松本城散策
13:30 着 14:30 発	海野宿散策	12:00 着 13:00 発	安曇野スイス村(昼食)
14:45 着 15:15 発	生島足島神社	13:30 着 14:15 発	大王わさび農場
15:40 着 16:10 発	大輪寺 16:30 ホテル着	16:30 着	馬電正門前

群馬高退連 2008 尾瀬交流集會に参加して

9月17日(水)～18日(木)に、群馬県高齢・退職者団体連合(群馬高退連)主催の 上記交流集會が尾瀬高原ホテルで開催され、菱の実会より初めて4名(高橋勝美 小沢永一・増田三郎・増田みづ江)が参加しました。この交流集會には事務局を含め県内より19団体82名が集まりました。当日は天候に恵まれ、グラウンドゴルフ大会には61名が参加し、我々4人も難しいコースで熱いプレーを繰り広げました。尚、我々の成績は初参加・未加盟団体ということで入賞は遠慮しました。又、尾瀬ハイキングには19名が初秋の尾瀬ヶ原を散策しました。グラウンドゴルフ大会・尾瀬ハイキング終了後は、親睦会に参加し参加者との交流をはかりました。



*群馬県高齢・退職者団体連合(群馬高退連)とは
群馬県高齢・退職者団体連合が正式名。連合群馬の呼びかけで組織化され、現在19の退職者団体が加入。退職者連合として全国組織にもなっています。「すべての県民が安心して暮らせる地域社会の実現」を目指す連合群馬と一体となって取り組みを進め会員相互の親睦と交流による元気な高齢者に向けた取り組みを強化するとともに加盟組織の拡大に向け新たな仲間づくりに取り組むことを目標に活動している組織。



シリーズ・馬電の思い出



⑤ 創立当時の思い出（昭和34年・5989***）

篠崎 辰夫

あれからもうまもなく「半世紀」が経とうとしている。当時入社した人はすでに定年で会社を去って久しい。本館とヒマラヤ杉が当時のおもかげを残しているが、中身は様変わり。作る物も、作り方も、仕事のやり方、環境も大きく変った。馬電の歴史は自分自身の歴史でもある。パソコンも電卓もない時代、どうやって仕事をしていたか・・・初心を忘れないために、創立当時を振り返ってみた。

(1) 当時の構内の様子

- 木造の本館は、白亜の洋館のようで、高い煙突、ヒマラヤ杉とともに工場のシンボルだった。その本館は今でも健在だが、煙突はもう無い。本館裏の技術センターは、当時はバレーコート、テニスコート。本館2階から眺めると眼下は広々と、まるで公園のようだった。その裏の現在の食堂は、もと体育館。なぜか床はコンクリートで、ころぶと怪我をした。
- 通勤は自転車か通勤バス。車通勤など考えられなかった。毎朝何台もの東武バスが連ね若さに溢れた女性達が降り立つ。この時間正門前は大変なにぎわいだった。夜間高校に通学する人もいて、学生服姿で通勤する人も目立った。構内には大きな自転車置き場が何か所かあった。
- 第三工場が当初の組立工場で、ここで掃除機が生産された。「TC-203形:定価15500円」。今はもっと安く買える。まさに物価の優等生。ちなみに当時よく残業で食べたラーメンは45円だった。尾島のなんとかいうラーメン屋はうまかった。なぜか45円を覚えている。

(2) 開所式

- 昭和34年5月に、県や町、三菱電機幹部らの来賓を招いて開所式が行われた。会場は第一工場の一角。そこに「ペギー葉山」が招かれた。歌った中の一曲が「南国土佐をあとにして」。この曲ができたのが同じ昭和34年5月。出来たばかりの曲。彼女の姿や顔は覚えていないが、この曲だけは覚えている。そのあとこの曲はみるみる大ヒット、彼女の代表曲となった。この曲を聞くと、当時の開所式の様子がよみがえってくる。馬電と同じ年の曲である。

(3) 当時の仕事の様子

- 事務所内は、冬はスチーム暖房で快適だったが、夏はたいへんだった。もちろんエアコンなんてなく扇風機。それも伝票や書類が飛ぶので仕事中はかけられない。汗で伝票や書類が手や腕にくっついて仕事にならない。黒い腕カバーは必需品だった。なにより伝票は大切だった。
- 売上の計算は、全国から送られてくる伝票をソロバンではじく。達成率などの比率計算は、計算尺が重宝した。「計算尺」は、当時を象徴するものとして今でも大事にとってある。
- 複数の書類や伝票は、中にカーボン紙を入れて書く。力がある。アンモニアくさい「オザ」とか、「バンダー」とかいうコピー機があったが、やたら手が汚れた記憶がある。正式な文書は、専門のタイプライターを打つ女性がいて一文字ずつ拾って打つ。電話は部屋に数台しかなく、外線は専門の交換手がいて、いちいちそこを経由する。書類も、専門の「私送便」のおじさんが東京の本社へ毎日大きなカバンを持って往復する。何もかも人海戦術だった。

これを思うと、今は何と便利で快適なことか・・・

今はパソコンがみんなやってくれる。実績は翌朝には表とグラフで一目瞭然。判断も早い。「報・連・相」はメールでほとんどを行う。パソコンは1人1台、空調のきいた部屋でみんな黙々とパソコンに向かって仕事をしている。パソコンがないと仕事にならない。この落差たるや・・・

しかし、そのためにコミュニケーションが希薄になったような気がする。隣りの人とのやりとりもメールで済ますらしい。また、パソコンになってすっかり字を書かなくなった。文字は「書く」から「打つ」になった。

漢字は「変換」というプロセスが加わった。これが漢字忘れの根源。今その変換さえ覚束なくなった。

「計算」も電卓になって脳を使わなくなった。今「認知症」が増えたのも、これらのせいかも知れない。

今から思うと、当時は不便な環境の中で一生懸命がんばっていた。それが活力を生み、様変りの原動力になったように思う。……「初心忘るべからず」

【 会員投稿 】

川柳創り(その後)

川柳創駄郎

その後も川柳創りは続けています。前にも書きましたが、俳句には季語があり、川柳には季語はなく時の出来事を時事川柳として書いている事が多い様です。新聞紙上に記載されている川柳は出来事をうまくキャッチしています。季語はありませんが川柳は旬とゆうものが感じられます。旬(出来事)を敏感に感じ取り川柳創りに励む人達が多い様です。

川柳君はもともと鈍人なので、旬に関係ないダジャレ川柳を創ってみました。ダジャレを漢字で駄洒落(つまらないしゃれ。まずいしゃれ)と書きます。川柳君は名前の駄が同じなので喜んでいようです。

「妻の胸南を見ればチチブサン」(秩父山系)、山脈の遠景は姿を変えず、木々が四季を通して色合を楽しませてくれます。

「歳重ね妻のお山は形変え」「ウォーキング足が痛いよアカギ(レ)サン」(赤城山)、アカギレ、シモヤケ、ヒビ等今の人達は「あの山は俺は知らねえシラネサン」(白根山)「合コンに今日も出掛けるアサマシイ」(浅間山)、(注)アサマシイ→浅ましい(意外である。あまりのことにあきれる。なさけない。みじめである。見苦しい等の意味があります)。やはり合コンに出掛けるのには歳をとった様です。

次は四字熟語で創ってみました。

「我が家では順風満帆とはいかず」「四面楚歌子供に孫も妻までも」主人(亭主)の権限がなくなったと言われていました。「関白(亭主)を虎視眈眈と狙ってる」。

川柳君は幼少の頃おくて(晩生)だった様です。歩くのは2歳になってから、しゃべりは3歳になってからだそうです。母は心配して近所の人達に聞いたところ、晩生は将来が楽しみだと言われ、心配する事はないと、「歳重ね大器晩成今だ出ず」「値上りで青息吐息の日々暮し」

「願い事平穩無事の唯ひとつ」。

近頃いやな出来事が多いですね。「捏造や拉致虐待と漢字知る」漢字を覚える事は良いのですが、楽しくなる出来事で知って行きたいと願います。

「少子化に虐待事故と拍車掛け」少子化、虐待、拉致等、国としても解決の先が見えません。

食品偽装も捏造の一種でしょう。青少年の犯罪の一因は対話の欠如と言う人もいます。

「対話なし親はパソコン子はゲーム」これでは話をする時間ありません。

〇〇党員が増えている様です。「党員が増えて喜ぶ蟹工船」蟹工船→小林多喜二著「蟹工船」のこと。小説「蟹工船」を読んだ人達が感銘を受けて〇〇党に入党することです。

終りはかたい川柳でした。旬ではありませんが、時事川柳も創ってみました。(善か善か)。

(注)善(よ)か→「よい」の九州方言、したがって書き終って「よいよい」となります。

川柳君的には(善か余暇)、余裕があつて良しとなります。

川柳君の日頃の実態は「メモをとりメモを忘れる日和かな」そんなところでしょう。

【 ボランティア活動 】 ご協力有難うございました。

- | | | |
|----------------|----------|-------|
| ① 会社前道路金木犀の剪定 | 7月19日 | 24名参加 |
| ② ねふた運行 | 8月14、15日 | 17名参加 |
| ③ ぴっころ作業所の作業応援 | 9月8日～10日 | 10名参加 |

なお、次回は11月に1人暮らし老人宅の枝下ろしと除草作業が実施されます。

多数の方の参加をお願いします。

<菱の実事務局>

◇ おしらせ ◇

		日時	場所	申込み、その他
1	10月の 囲碁愛好会	10月20日(月) 9:30~	赤城倶楽部	ご自由にご参加ください
2	10月の麻雀会	10月9日(木) 10月24日(金) 9:30~17:00	赤城倶楽部 会費2000円	申込み 10/7(火) 21日(火) 荒井昭三(0276-52-0803) 小林昌樹(0276-38-0964)
3	10月 グラウンドゴルフ 例会	10月27日(月) 9:30~ (集合 9:15)	利根グラウンド ゴルフ場 (会費:無料)	希望者は直接会場へ (雨天中止)
4	第38回 ゴルフ愛好会例会	10月28日(火) 8:38 スタート 集合 8:00	上武ゴルフ場 5700円(食事込) 会費 1000円	10/13 締切 川口(56-2678) 関根(31-8410) 長谷川(0270-74-2056) 竹沢 宏(52-2271)
5	11月の パソコンサークル	11月4日(火) 13:30~15:30	労組事務室	ご自由にご参加ください
6	11月の カラオケ月例会	11月4日(火) 17:30~20:30	カラオケ本舗 「まねきねこ」 0276-52-3450	申込み:10月31日(金)まで 大橋 浩(0276-52-3866)
7	編集委員会	10月20日(月) 13:30~	組合会議室	都合の悪い場合は、事務局ま で忘れずにご連絡をお願いい たします
8	幹事会	11月4日(火) 15:30~		
9	【ボランティア】	11月に1人暮らし老人宅の枝下ろし と除草作業が実施されます。		

8月14日、15日に行われた「尾島ねふた祭り」の写真集を、菱の実会ホームページ「特設ギャラリー」に掲載しております。 <ここ> をクリックしてご覧下さい。

編集後記

「菱の実会だより」も今回186号となります。「菱の実会」誕生が1986年、そして創刊号が何時であったのか? 詳しく確認しておりませんが、月一回の発刊として15年を越える歴史を積み重ねてきております。

会の活動・会員の近況等を伝える発信源として、更なる充実した機関紙を目指しております。会員皆様のご寄稿・ご意見をお待ちしております。

“ よろしくお願ひいたします ”

編集担当 : 高柳



発行 2008-10-6 No.186

発行責任者 大谷 清輔

編集:「菱の実会だより」編集委員会

三菱電機労働組合群馬支部

〒370-0492 群馬県太田市岩松町 800

TEL 0276-52-3874 Fax 0276-52-3207

菱の実会だよりホームページ アドレス <http://www18.ocn.ne.jp/~hishimig/>